

(11) 中筋小学校

学 校 長 陸野 高俊
校内研究代表者 池田 るみ

1. 研究主題

「一人ひとりが主体的に学び、ともに高め合う児童の育成」
～見方・考え方を深める『とも学び』のありかた（算数科を通して）～

2. 主題設定の理由

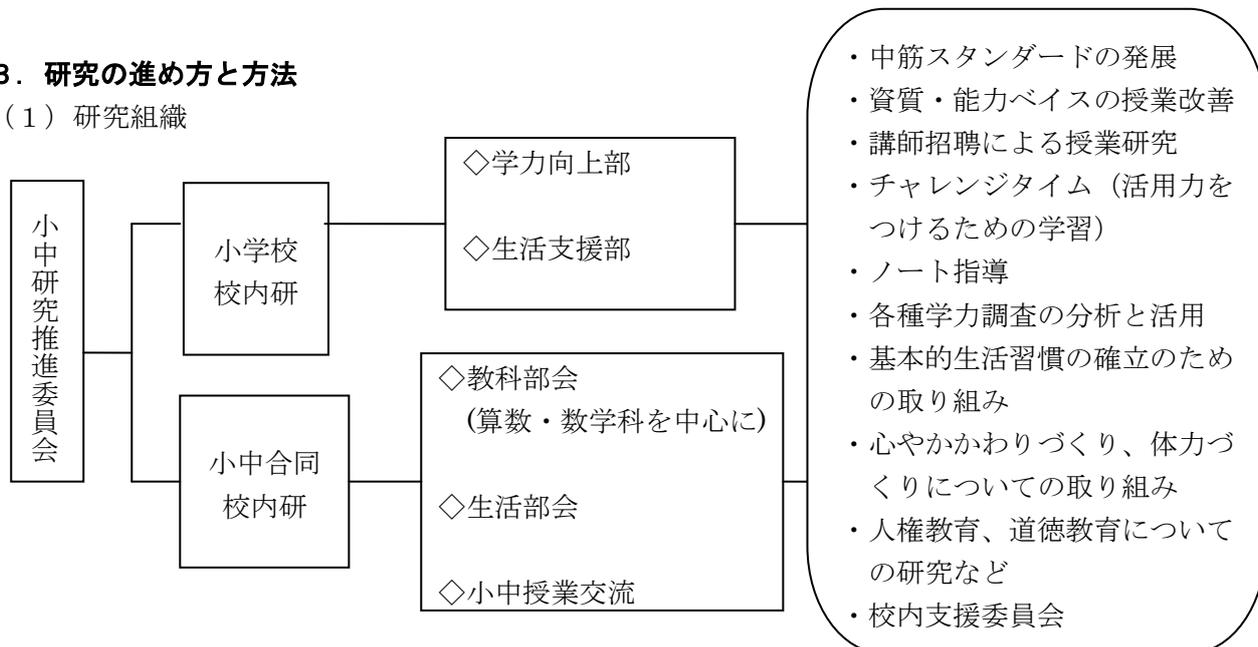
昨年度は、H31年度からの四万十市研究テーマ「新学習指導要領を踏まえた授業改善、保幼小中連携」を受け、研究主題を「一人ひとりが主体的に学び、ともに高め合う児童の育成～9年間を見通したカリキュラム、授業づくり～」とし、算数科における新学習指導要領がめざす資質・能力ベースの授業改善を柱に研究を進めてきた。これまで積み重ねてきた中筋スタンダードをもとに、主体的・対話的で深い学びとなるような、「めあての設定」や、「対話」、「思考が深まる手立て」等を中心課題として、全教員が中筋スタンダードにそって授業研究を行うなかで、教師の指導力と児童の学びに向かう力の向上が実感できてきた。また、小中間の授業交流においても、学習スタイルや授業の視点が統一されてきたことや、算数、数学科を中心に図形領域の系統性を一覧表で整理し、教科の特性である数学的な見方・考え方の成長をとらえることなどを通して、児童生徒の資質・能力を育成していくための研究が進められたことも一つの成果といえる。しかし、児童生徒自らが対話をつなげ、他者との意見交流の中から課題解決していく過程に弱さがあり、さらに研究を深めていく必要性を感じた。

そこで、本年度の研究主題は昨年度と同様にし、サブタイトルを～見方・考え方を深める『とも学び』のありかた（算数科を通して）～と変更した。中筋スタンダードは、児童の主体的な学び合いを通して、個々の力を高めていくことをねらいとする授業スタイルである。その要となる『とも学び』を学習リーダーを中心に自分たちで対話をつなげることで、見方・考え方をとらえ、深め、課題解決し、さらに新たな課題へ広げていけるような研究を進めていく。そして、中筋スタンダードを一步前進させ、学びの質を高めることで、児童の資質・能力をさらに育成していきたい。

また、昨年度同様に小中で9年間の学びや生活をつなぐ取り組みや、スタートカリキュラムの充実、10の姿の共有など保・小・中間での連携した取り組みの充実も図っていく。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究組織



(2) 研究の方法

- ・毎月3回、基本的に水曜日を校内研の日とする。講師の都合で変更する場合もある。
- ・学力向上部、生活支援部の部会を定期的にもつ。
- ・小中合同校内研を年に6回もち各部会の中で小中の連携を深めていく。

4. 具体的な取り組み

(1) 授業づくりの研究

- ①指導案の改定；単元で働かせる見方・考え方を明記し、A4・表裏1枚に収める。
- ②新学習指導要領にもとづく資質・能力ベースの授業研究（算数科）
 - ・各学級年2回の研究授業（年10回）
 - ・教材研究はブロック研修とし、講師招聘のもと、事後研究を行う。
 - ・研究授業は視点を明確にして参観・協議し、PDCAサイクルで授業改善に取り組む。
 - ・協議内容や助言、児童・教師別のチェックシート結果等を研究通信で知らせる。

◇研究協議の視点

- ①めあての設定；見方・考え方を働かせて課題解決に向かおうとしていたか。
- ②とも学び；見方・考え方を働かせた話し合いができていたか。
- ③手だて；見方・考え方を働かせるような手立てがされていたか。

〈見方・考え方〉

- ◇これまでの学習と比べて
 - ・どこが同じ ちがう？
- ◇これまで学習したこと
 - ・どんなことが使える？

㊟友だちの発表を聞いて

- ・〈見方・考え方〉は使えていたかな？
- ・気づいたこと
- ・わかったこと

めあての設定やとも学び時に使用する見方・考え方ボードを作成し活用していた。

松山先生の講話から学んだこと

- 問題提示の仕方の工夫
 - ⇒課題を子ども自身の課題に
- 児童の見方・考え方にずれを感じさせる
 - ⇒自分以外の見方・考え方に触れさせる。
- 教師は学びのサポート
 - ⇒ここぞという場面が出る。

講話『自ら学ぶ力を育てる複式の授業』から学んだこと（吉本先生）

- リーダー学習は能力ベースの授業づくりと重なる。
- 対話が深まる（見方・考え方を働かせる）場面を多くとるためには無駄を省く。
 - ⇒適用問題でできるようになったことを確認し1時間で終わる。（適用10分）
- 低学年から、教科書で用いられる算数用語を使って説明をさせていく。

③資質・能力を支える取り組み

- ◇ノート指導；中筋スタンダードに基づく算数ノートの使い方を年度初めに全校朝会で確認
- ◇自主学習の充実；自主学習ノートの使い方や書き方も全校集会で確認し、ぐるぐるノート（学年ごとにリレー形式で回す）を実施
- ◇帯タイム（チャレンジタイム）；活用力をつけるための内容に変更（天声こども語の視写等）

④その他の取り組み

◇生活づくり

- ・基本的な生活習慣の確立のため生活がんばり調べを行い表彰。(毎月実施)

◇体力づくり

- ・朝マラソン(4分間走、雨天時はラジオ体操)、外あそびを奨励し体力をつける。

◇かかわりづくり

- ・たてわり班活動を中心に行う。(清掃活動、発表朝会、あいさつ運動など)
 - ・全校あそび(毎週水曜日)体育委員会を中心となって行う。
 - ・エンカウンター(毎月1回)を実施し、ふり返りを児童玄関に掲示して共有する。
 - ・人権教育主任を中心に各学年ごとにいいところみつけを行い、掲示していく。
- ※校内支援委員会を月に1回設け、児童の状態を共有し支援方法を検討していく。

(2) 小中連携

- ・合同校内研や合同学習会で、情報交換や共通した取り組みを行い、児童・生徒の力にしていく。
- ・授業参観交流により、学習の系統性や授業スタイルを知り、自身の授業改善に生かす。
- ・2部会を設け、小学校の2部会と連携しながら研究を進めていく。

【教科部会】

- ・授業参観交流シートの確認と交換
- ・9年間を見通した系統表の作成
- ・小中授業交流(数学、英語、国語、社会)
- ・見方・考え方の学習(算数・数学、理科)

【生活部会】

- ・生活習慣、家庭学習の定着
- ・メディアとの付き合い方の学習
- ・エンカウンター、なかまづくりの取り組み

(3) 保・小・中の連携

- ・保小連絡会(年4回)、保小中連絡会(年2回)、小中連絡会(年10回)
- ・スタートカリキュラムの作成と10の姿共有シートの確認
- ・授業参観、交流活動(つるさし、いもほり、一日入学など)

5. 今年度の成果と課題

<成果>

- ・見方・考え方を働かせたとも学びについて、全教員が意識して授業をすることができた。
- ・校内研修での指導助言や講話での学びのなかで、授業スタイルを見直し、スタンダードを発展させることができた。
- ・小中間の授業交流を通して、9年間の学びの系統性や授業スタイルのについて相互理解ができた。

<来年度にむけて>

- ・より主体的・対話的で深い学びにつながるような授業改善を行っていく(見方、考え方を働かせるとも学びの追求)。
- ・個別最適な学びを推進するための手段としてICTを活用した授業づくりを行っていく。
- ・引き続き保小中の連携を密にするとともに、令和4年度をみすえ小学校が中心となって地域との連携の輪を広げていく。